

誰もが抱える悩みをパワーツと解決！



早稲田アカデミー
教育事業第二本部副本部長
福田 貴一

福 田 貴 一 先生 の 福 が 来 る ア ド バ イ ス

テストを集中して受けることで起きる、変化

小学生が一番集中して問題に取り組むのはテストのときだ、とよくいわれます。わからない問題があったとき、授業では先生が教えてくれますが、テストでは誰も助けられないからです。テストを受けることで得られる、自分1人の力で最後まで、解き切る、という経験が、子どもを大きく成長させるのです。今回は、「集中してテストを受ける」ことの効果についてお伝えします。

質問することで「解決」する？

授業中に難しい問題に取り組ませている生徒たちが何となく先生の解説を待っている……という場合があります。まだ依存心の強い小学生ですから、先生が目の前にいれば、説明してくれるのを期待してしまうのは仕方ないことかもしれません。しかし、解説を聞いて解き方を理解することはできません、それだけでは実際に解けるようにはなりません。解けるようになるためには、自分で解き切る経験が必要なのです。

家庭学習でも同様です。高校生になり、精神的にある程度大人になれば、「自分で解き切る」ことが大切だとわかってきます。しかし、小学生には、まだまだそこまでの考え方はできません。

例えば、家庭学習でわからなかった問題は「質問すれば解決する」と思ってしまう場合があります。質問して先生に教えてもらうことで、「わかったつもり」「できたつもり」になってしま

うのです。そして、「この問題はもうわかったぞ、解決したぞ」と思ってしまう。そうすると、もう一度自分で解き切ってみよう、という気持ちにはなかなかならないでしょう。

また、家で問題をちらりと見ただけで、ほとんど考えることもなく「難しそうだから自分にはムリ」と考えてしまっている場合もあります。こういった場合は質問して解説を聞いても、「わかったつもり」にさえたどりつけないこともあります。自分である程度考えを進めていけば、説明を聞くことで「なぜ自分が正解できなかったか」を理解することが出来ます。しかし、真剣に考えていなければ、説明を聞いてもそこま

で到達しません。先生が出してくれた答えをただノートに写して、「解決」したことにしてしまう生徒もいます。

テストで真剣に問題に取り組むと

一方、テストのときには誰も助けてくれませんが、真剣に問題に取り組まざるを得ません。問題を読んで少し難しいと思っても、そこで諦めないで自分で考えるしかありません。すると、それまで解けなかった問題ができるようになることがあるのです。テストのときに自分で解き切った問題は、次からは難しいと感じることなく解けるようになっていくはず。

また、テストの時間中に、集中して取り組んでも、解けなかった問題は、子どもの中に強い印象を残します。すると、その問題の解説授業

を受けたとき、もしくは解説を読んだときに、「なるほど、わかった!」と、すっと頭の中に入ってくる人が多いです。私はこれこそが、子どもが自分の力で階段を一段上った瞬間だと考えています。

テストで実力を発揮する

真剣に集中してテストに取り組んだとしても、実力通りの結果を出すのはなかなか難しいことです。小学生の場合、テスト結果は単純に「学力の表れ」とはいえないこともあります。精神的にまだ成長段階にある子どもたちですから、そのときの気分や体調が影響してしまう場合も多くあります。思っていたよりも低い成績をとってしまった生徒にテスト当日の状態を聞いてみると、「朝、お母さんとケンカした」「友

達関係で気になることがあって」などという話が返ってくることもあります。

また、「テストの受け方」そのものがまだ上手くないために、実力よりも低い結果となってしまうこともあります。テストのときは限られた時間内に多くの問題を解くことになり、一つひとつの問題が解けるかどうかだけではなく、テスト全体を通して得点を重ねていくテクニックも必要になってきます。

ほとんどの保護者の方が、「テストで間違えた問題を家でやらせてみたらできたのに……!」という経験をお持ちのことでしょう。それは、ここで述べた二つの要素(「精神面や体調面・テストの受け方」)によるところが大きいと思えます。

テストの受け方のアドバイス① 「わからない問題はとばす」

テストで失敗してしまいがちなのが、難しい問題に時間を掛けすぎてしまった、というものです。このような場合、後の問題で時間が足りなくなってしまうだけでなく、できない問題があったことに気をとられ、その先の問題に集中できなくなってしまうこともあるようです。そういう事態に陥らないよう、テストを受ける前に「わからない問題はとばして、次の問題に進んでいいのよ」とアドバイスしていただく効果的です。

テストの受け方のアドバイス② 「何を答えるのかしっかりと考える」

算数で「兄の所持金」を問われているのに「妹の所持金」を答えてしまった、国語の「あてはまらないもの」を選ぶ問題で「正しいもの」を探していた……、という生徒をよく見かけます。考え方や解き方が正しかったとしても、解答欄に書くべき「答え」を間違えてしまえば、当然バツとなってしまいます。

この点に関しては、ご家庭でも比較的簡単にトレーニングができます。算数でも国語でも、設問を読んで「問われている部分」に線を引くように習慣付けられればよいだけです。まずは、「設問で何を問われているのか」「この設問は何を答えるのか」をしっかりとつかめるよう、ご家庭でもご指導ください。



福田 貴一 の 四つ葉café 公開中!

中学受験をお考えの小学校3・4年生のお子様をお持ちの保護者様のためのブログです。

早稲田アカデミー 教育事業第二本部 副本部長 福田 貴一

中学受験に関するブログを公開しています。このブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関するさまざまなことについて書いています。

詳細はWebをご確認ください。

早稲田アカデミー 検索

左の二次元コードを読み込んでご確認下さい。スマートフォンのみ対応